

平成 20 年度秋季企画展

大和川つけかえとその後

柏原市立歴史資料館

大和川は、魚をつる人、ボール遊びをする人、散歩をする人など今日もたくさんの人たちに利用されています。その人たちのなかには、大和川の歴史を知らない人もいます。でも、大和川をもっと好きになってもらうために、大和川の歴史についても、ぜひ学んでもらいたいと思います。そうすれば、大和川のことを、もっともっと好きになると思います。

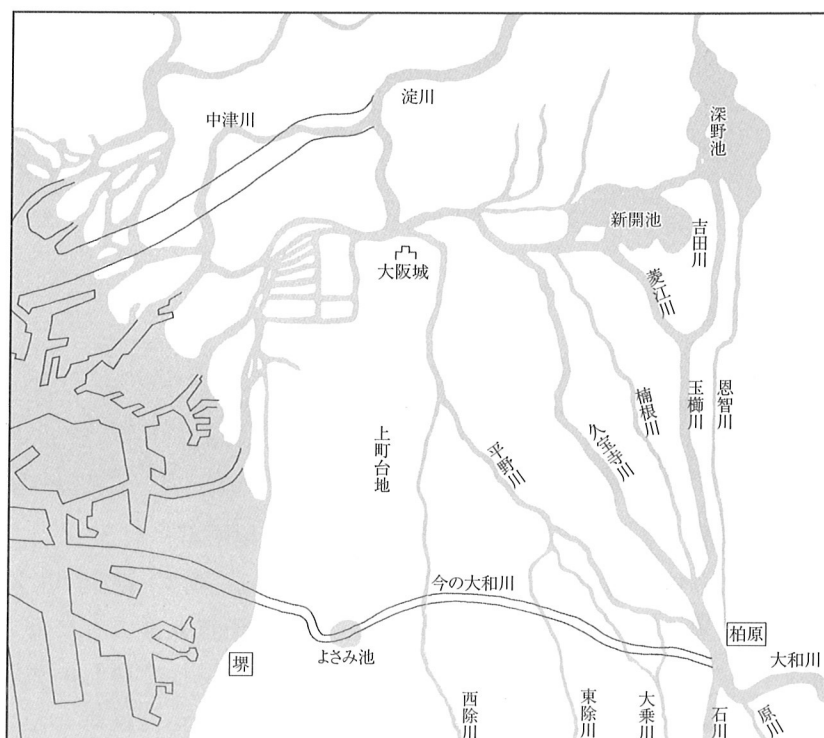
つけかえまでの大和川

つけかえまでの大和川は、久宝寺川（長瀬川）や玉櫛川（玉串川）など何本かの川に分かれて流れ、大阪城の北で、もとの淀川（大川）に流れこんでいました。しかし、大雨になると堤防が切れたり、堤防から水があふれたりして、たびたび洪水をおこしていました。そして、人々のあいだから大和川のつけかえを求める運動がはじまりました。その運動を中心になって行っていたひとりが、中甚兵衛でした。この展示でも、中甚兵衛の残したものをたくさん展示しています。

大和川のつけかえ

つけかえ運動のはじまりからおよそ 50 年。元禄 17 年（宝永元年・1704）にとうとうつけかえ工事がはじまりました。2 月にはじまった工事は 10 月に終わり、わずか 8 ヶ月で新しい大和川が完成しました。川の幅 180m、長さ 14.3km の大きな川です。

あの大きな大和川が、わずか 8 ヶ月でつくられたことにおどろきます。そして、そのころの人たちの知恵や技術の高さにおどろかされます。



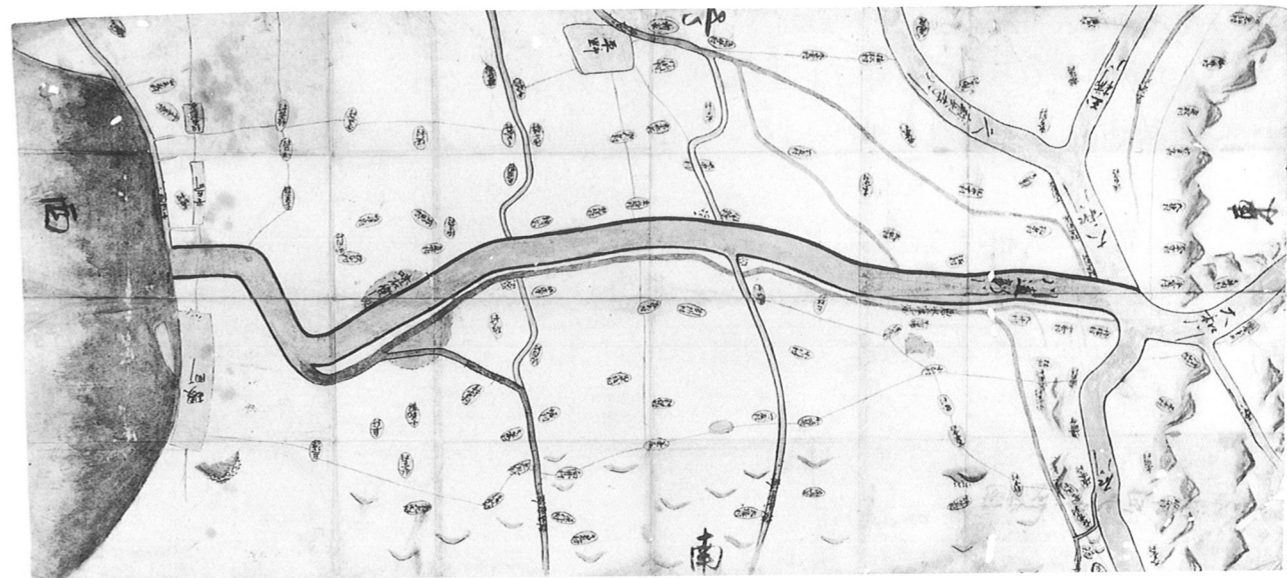
つけかえ前の大和川



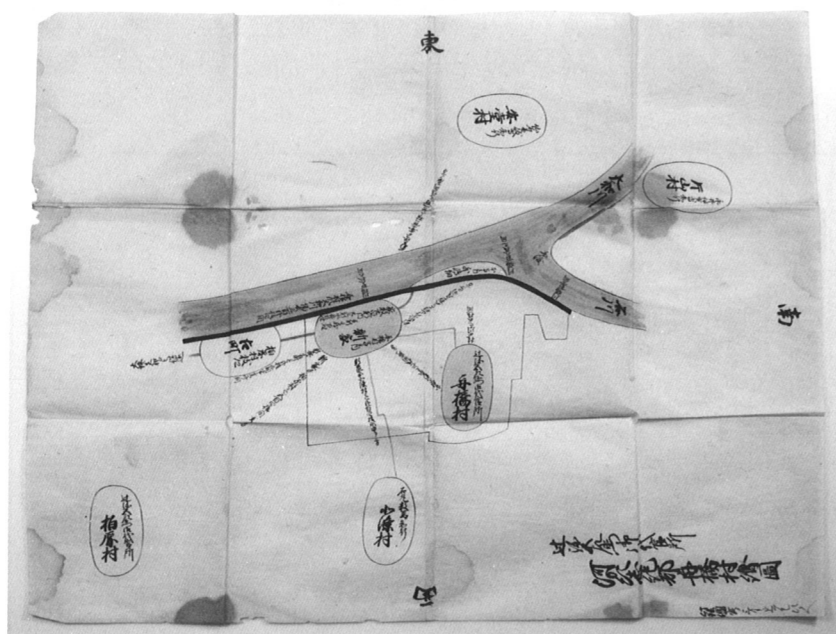
なかじんべえちやくよう しかがわじん ぼ おり
中甚兵衛 着用の鹿革陣羽織 (中九兵衛氏所蔵、N-080605)
 つけかえ運動を中心になって行っていた中甚兵衛は、工事でも中心となつてはたらいしています。その甚兵衛が、つけかえ工事のときに着ていたと伝えられる陣羽織です。着物の上に着る上着で、鹿の革で作られています。その内側には3種類の字で「水」と書かれています。甚兵衛は、「水」という字にどんな思いをこめたのでしょうか。



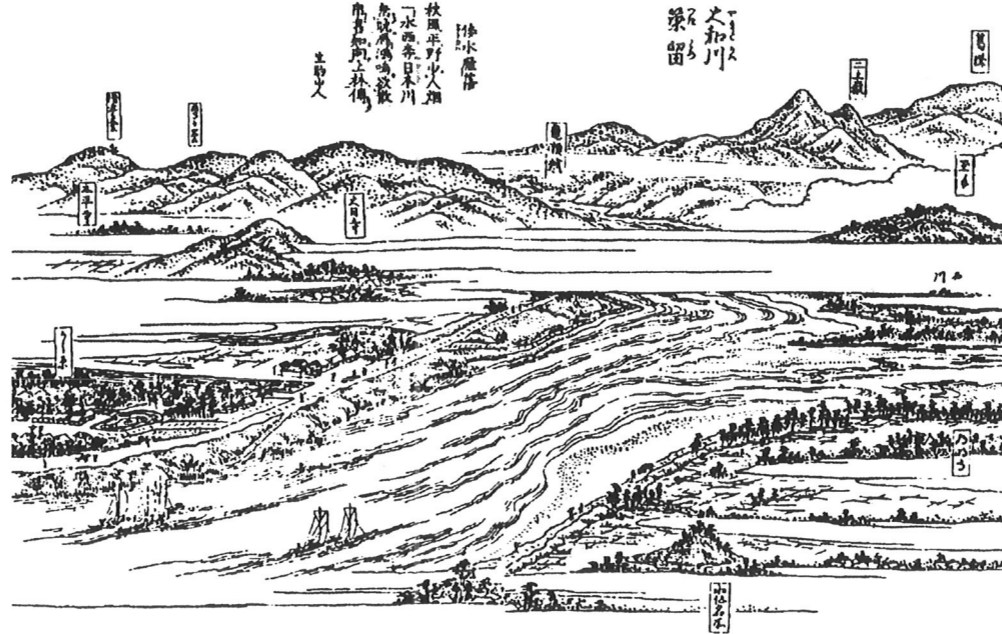
なかじんべえしやうぞうが
中甚兵衛肖像画 (中九兵衛氏所蔵、N-080606)
 なかじんべえ えが やまとがわ
 中甚兵衛を描いた絵です。大和川のつけかえが行われた次の年、甚兵衛は67歳で出家しました。出家とは、僧(お坊さん)になることです。この絵は、出家の後に描かれたものです。



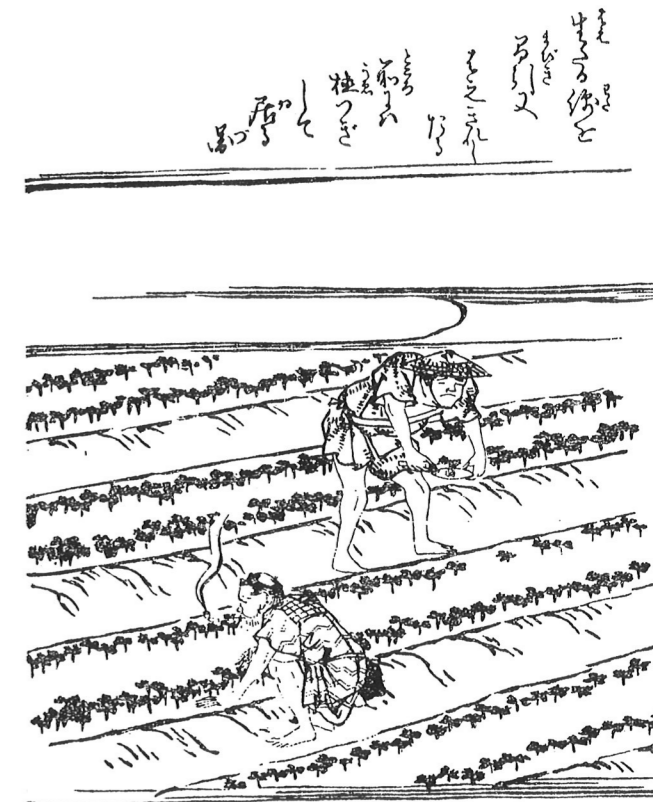
かわたがえしんかわず
川違新川図 (中九兵衛氏所蔵、N-080607)
 新しい大和川とそのほかの川の位置を示した絵図です。この周辺の川は、ほとんど南から北へ流れていました。ところが、新しい大和川は東から西へと流れることになったため、多くの川とぶつかってしまいます。そこで、以前からあった川がうまく新しい大和川に流れるようにいろいろとくふうされました。ところが、大雨が降って水がふえると、新しい大和川にうまく水が流れこまず、こんどは以前からあった川が何度も洪水をおこすようになってしまいました。



ふなはしむらえず ふじいでらし ふなはしちやう まつながはくしやうきわんかんしやうぞう
舟橋村絵図 (藤井寺市船橋町 松永白洲記念館所蔵)
 大和川がつけかえられた付近のつけかえ前の絵図です。ふなはしむらしんけ 舟橋村新家という村のあたりに新しい大和川が流れることになりました。このように、いくつもの家や田畑をつぶして新しい大和川がつけられました。その周辺の人たちがつけかえに反対したのも当然のことでしょう。



かわちめいしよずえ つきどめ
『河内名所図会』にみえる築留
 大和川がつけかえられた地点を築留といいます。堤防を築いて、川を留めたので築留です。江戸時代のガイドブックでもある『河内名所図会』に、その築留のようすが描かれています。この絵をよくみると、いまの柏原市役所付近の堤防が二重になっていることや、堤防の近くに杭が何本も打たれていること、帆を張った船が行きかっていたことなどがわかります。



めんぼやうむ えが しまばた
『綿圃要務』に描かれた島畠
 わた そだ かた きろく
 綿の育て方などを記録した『綿圃要務』という本に、河内の綿は水田と畑が交互につくられた島畠でつくられていたと書かれています。

